

「奥三河 花祭の源流を探る」



日時 2018年10月2日(火) 16時50分～

場所 駒場キャンパス 101号館2階 研修室

愛知県奥三河地方で霜月に行われる花祭は、冬に向かい太陽の力が衰える季節に、夜を徹して行われる湯立神楽である。中世に伊勢神道や熊野修験によって伝えられたといわれ、鬼が主役となる独特の舞や神事は、民俗学や文化人類学からの注目も高い。

花祭がこの地域にもたらしたものは何であったのか。山岳修験や宗教民俗学に造詣の深い鈴木正崇先生をお招きして講義をしていただく。貴重な機会なので関心のある方はぜひご参加ください。

※本授業は IHS「多文化共生・統合人間学実習 I」花祭研修の一環ですが、履修登録学生以外の参加も歓迎します。

鈴木正崇(すずき まさたか)

学生時代ユーラシア各地を放浪したのち銀行に就職。しかし放浪の体験を生かしたく銀行を退職して大学院に進学。現在、慶応大学名誉教授。研究ジャンルは民俗宗教、祭祀芸能、民俗社会を中心とする日本文化論など。近著に『東アジアの民族と文化の変貌—少数民族と漢族、中国と日本—』(風響社 2017年)、『熊野と神楽—聖地の根源的力を求めて—』(2018年平凡社)。

・問合せ project-h@ihs.c.u-tokyo.ac.jp

■主催 東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)プロジェクトH